



ひろしま NPO センターと業務連携 福祉事業相談窓口を開設

「社会的課題解決を後押し、地域活性の担い手に」

広島銀行法人営業部 マネージャー 久保尚史さん

少子高齢化が進み、高齢者の介護や生活サポートに取り組むNPO法人や団体が増えています。広島銀行は社会的課題に取り組むNPO法人等を支援しようと今年1月19日、法人営業部に「地域福祉事業相談窓口」を開設しました。

広島銀行では平成16年4月に法人営業部内に医療・介護・福祉関連の担当窓口を設置。当初は病院やクリニックへの融資相談が主で、福祉業界との接点はあまりなかったそうです。しかし、政府が目指す地域包括ケアシステムを構築するには、地域から生まれる「NPO法人の役割が重要になる」と分析。政府系の金融機関でもNPO法人向けの融資が増加していました。法人営業部の久保尚史マネージャーは、「地域包括ケアシステムの原点は広島発。その広島で、地方銀行としてやるべきことがあるのではないかと感じた」と感じたと語ります。

各方面へヒアリングを続けたところ、社会的課題解決型事業は「地域に貢献したい」「困っている人をなんとかしたい」と思いは強いものの、法人立ち上げの手続きや資金調達に苦労している実情が見えてきました。事業内容や計画の採算を判断するのが難しく、NPO法人への融資は数えるほどしかありませんでした。そこで、久保マネージャーは銀行内で「要支援1とは…」という説明から始め、地域福祉の相談事業の重要性を説いていきました。ちょうどそのころ、特定非営利活動法人ひろしまNPOセンターに相談を持ちかけ、業務連携が実現しました。

相談窓口は広島銀行法人営業部とひろしまNPOセンターに設置されています。広島銀行の支店に寄せられた相談には、同部が対応します。窓口開始後の相談件数は、30営業日で8件とますますのペース。立ち上げる法人の形の検討から始まり、実際に立ち上げる手続きの手順、資金調達、資金計

画、事業計画の策定支援や検証も行います。NPO法人を立ち上げる場合は、ひろしまNPOセンターが設立方法、販売先や仕入れ先、連携先の紹介、助成金申請のアドバイスなどに応じます。「窓口を設けたことで、相談を受ける体制が整いました。しかし、相談内容は幅広い。現場の経験値とスキルを上げていかなければならない」と気を引き締めます。

「地域包括システムの原点は広島発。当行でこの支援事業の成功事例をつくり、それをモデルにさせていただきながら全国に広がってほしい」。すでに県外の地銀から事業相談窓口についての問い合わせがあり、手ごたえを感じています。「地銀として社会的課題解決を後押し、地域の活性化の担い手になりたい」と言葉に力を込めます。



マネージャーの久保尚史さん(44歳)。認知症サポーター養成講座講師(キャラバンメイト)や防災士などの資格も保有する銀行員。「福祉事業を展開することで利益を創出し、運営資金を生み出していくことも重要です」

<DATA>

広島銀行 法人営業部 地域福祉事業相談窓口
☎082-504-4096
特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター
☎082-511-3180

未来につなぐ人財育成のエッセンス②

人前で話す立場になったら～信頼と価値を伝えるポイント～

一般社団法人リエゾン地域福祉研究所 代表理事 丸山法子

(社会福祉士 介護福祉士 介護支援専門員 生涯学習開発財団認定コーチ NLPマスタープラクティショナー)



新年度には人前で話す機会が、思い切り増えます。「私は人見知りだから」「あがり症だし」などとごまかしながら、マイクを握る人もいらっしゃるでしょう。私は講師として年間100回以上人前で話していますが、当初はマイクを持つ手がぶるぶるふるえて、勝手にエコーがかかるほどのあがり症でした。回数をこなしていると緊張という氷はとけつつあります。場数をこなすとなんとかなるものかもしれません。

あがり症よりも気になることがあります。とりわけ立場のある人が人前に出られる場面に残念な様子が。まさに覚悟のないまま立ち居振る舞いの定まらないお姿をお見受けします。しかるべき肩書きをお持ちであり、公的なお立場の方は特に、伝えるべきことが伝わり、聴き手からの信頼を得ることが最大の目的。ところが、信頼を下げる話し方、話す内容や言葉遣いの間違い、自己演出が残念なことがあります。そのことが伝わってしまうと、せっかくの機会をふいにしてしまうことになります。

そこで、視覚、聴覚、雰囲気（第一印象）をテーマに、考えるべき点を整理してみました。

視覚へ伝わること

視覚ノイズを減らします。例えば、緊張を避けるために手遊びすることや、無理やりな笑顔、小刻みなうなずき、落ち着きのない貧乏ゆすり、さらには揺れるアクセサリーやブランド名の入った服などです。手や視線、足など、絶えず動かないように。視聴者はそちらのほうにいい気をとられ、その間、話がいってこないからです。

聴覚へ伝わること

聴覚ノイズも同様に減らします。「え～」 「あの」 「まあ」などの口ぐ

せ、語尾に「つまりですね。～なのですね」など「ね」を繰り返すなど、耳障りに聞こえます。そして、具体的に発言すること。抽象的だと印象にも記憶にも残りません。また、事実と感情を分けて語ること。「楽しい」「うれしい」「許せない」など感情の部分は削除して表現します。さらに、言葉を正確に使います。「進捗（しんちょく）」を「しんぽ」という読み間違い、「煮詰まる（結論が出る状態）」と「行き詰まる（物事が進展しなくなる）」の混同などです。あと、高めの声で話さないこと、語尾を下げる、滑舌をよくしてはっきりと聞き取れる言葉を使うなどは、気をつけたい点です。

雰囲気（第一印象）

相手に与えたい印象とは違う印象が伝わってしまうことはありませんか。例えば、「お若いんですね」「がんばっていますね」などの場合はキャリアを積んだことが伝わっていないこととなります。また、与えたい印象が定まっていない場合には「〇〇さん、知ってる?」「どんな人だったかな?」というようにぼんやりしてしまうこともあります。自分がどんな人に見られたいのかを具体的に、そういう人はどんな表現をするのか、伝え方を逆算して考えるという方法をお勧めします。

人前で話すことに慣れていない施設長や幹部のみなさまは「もうそんなことはできている」と思われるかもしれませんね。ところが、慣れというものは、クセに気づけないことが少なくないようです。この春はじめてリーダーになるスタッフ、中堅スタッフとともに、組織のトップに立つ方々こそ、あなたの価値が伝わる話し方で、信頼を得てください。

リエゾン地域福祉研究所 [検索](#)

介護を語るあなたへ贈る本

「おもしろい人」の会話の公式 気のきいた一言がパッと出てくる!

吉田 照幸(著) SBクリエイティブ 出版

「『休日は何をしているんですか』という質問は逆効果」



「話が盛り上がっているときに、その会話に入ってはいけない」など、誰も教えてくれなかった会話のコツが満載。「あまちゃん」「サラリーマンNEO」など、ここ10年で日本一コントやコメディを制作した著者が、誰でも簡単に話を弾ませるコツを紹介し、新しいチームがスタートする春にお役に立つ一冊。

<地域包括ケアのなるほどキーワード>

お口の健康に関心はありつつも

歯科医療に対する生活者の関心度は非常に高いものの、詳しく知っている人は少ないようです。日本歯科医師会の調べによると8割を超える人が「歯並びやかみ合わせの悪さが歯の病気の原因となる」「歯科疾患と全身の病気との密接な関係」などに関心があるといわれています。ところが、なんとなく知っていて関心があっても、詳しくは知らない人が8割を超えるのだそうです。また「歯や口腔に異常を感じている」人が5割を超えているものの、異常があるからといって8割が未治療という驚きの結果も出ています。多くの人が、きっかけさえあればお口の健康について学び、適切なケアをしたいと思っている様子うかがえます。おいしく食べること、健康を手に入れることに、わかりやすく楽しく伝える取り組みを、歯科医院だけでなく地域ぐるみで推進することが必要ですね。

住み慣れた地域で暮らす高齢者の健康サポーター「訪問看護師」 「侮らないで皮膚の状態」 健康のバロメーターです!

訪問看護ステーション「さいの」看護師 玉田八重子



事例

- ①81歳 女性 糖尿病 要支援2 訪問看護:週2回
皮膚障害:偏った歩行で足の裏に「魚の目」が繰り返しできる。痛みを生じる。
- ②76歳 男性 リウマチ(関節の拘縮・変形がある)・糖尿病 要支援2 訪問看護:隔週1回
皮膚障害:小指(足)の横が布団にあたってだけで(自分で確認できない)。靴ずれによる表皮剥離がある。所々皮膚が厚くゴワゴワしている。全体に皮膚がコナをふいてカサカサしている。かき傷が多数ある。
- ③78歳 男性 全身衰弱と全身の痛みで寝たきり 要介護3 訪問看護:週3回
皮膚障害:踵(かかと)・仙骨部・臀部にステージⅡ～Ⅲのじょく創を確認。全体に皮膚がコナをふいてカサカサしている。

経緯

事例①②共に、自分で足先は確認できない方でした。定期訪問では話を聴き、全身状態を観察します。①のように繰り返される症状は、訴えがなくても毎回確認をします。同時に全身の皮膚の状態も観察します。②のようにかき傷があり、カサカサした状態は、痒み強いことがわかります。③は、2～3日食事が取れなくて寝たきりの状態、原因不明の痛みで、痛み止めを使っておられました。全身の観察でじょく創ができていたことがわかり、創傷治療用の被覆剤を使って処置を行いました。次の訪問時には、痛みは軽くなっていました。

看護師の判断

糖尿病の方の傷は、治りにくく、化膿しやすいという特徴があり、血液循環の悪い足先や指の傷は要注意です。早い対処が必要です。①②例とも、定期的な訪問が効果を得ていると思います。③は、皮膚の力サカサから低栄養と脱水を判断。食事が取れないことによって低栄養が進行して動けなくなり、じょく創が出来たのだと考えました。じょく創の痛みもあり悪循環です。処置をすることで痛みの改善、点滴の指示でカサカサも軽くなり脱水等の全身状態も改善しました。

ここチェック! 皮膚の状態は、生活や健康状態をあらわしている。

●直接生命の危機と関係することは少ないが、全身の兆候を表しているといわれます。

- (例) ①ヘルペスや水いぼ等が出やすくなる…免疫力(抵抗力)の低下
②带状疱疹ができた…免疫力の低下、何かの病気の前兆の場合もある
③高齢になる…水分、皮脂の分泌低下(乾燥肌)になり保護機能が低下。刺激(傷)を受けやすく、痒みも強くなる
④皮膚に症状がなく痒み強い…内臓の病気が原因の場合がある。ストレス・偏食・過労・胃腸が弱い・環境要因等でも容易に影響を受けやすい
⑤頑固な痒み…疥癬に要注意

CAPS

新サービスののお知らせ



8月末
オープン
予定!

★レシピ募集中★

ご利用者様に実際に作って喜ばれたレシピ、手に入りやすい食材で、短時間で作れるレシピ、こだわりの介護食レシピを大募集!
あなたのレシピを待っている人がいます! 人気のレシピは書籍化も♪
携帯で撮った写真でもOKです。どしどしご応募ください♪

詳しくはショッピングサイトへ

その場で使える、カンタン介護食レシピ

キャプスキッチン

- POINT 1 介護現場やご家庭で実際につくっている介護食レシピを公開!
- POINT 2 訪問先で調理するヘルパーさんが活用しやすい時短レシピも紹介
- POINT 3 カンタンにつくれて保存もOK!
つくるのも食べるのも両者がおいしくなる検索サイト!



No.001
煮込み豆腐
ハンバーグ(2人分)

この文字はダミーです。キャプスキッチンについての文章が入ります。この文字はダミーです。

> レシピはこちら



No.002
れんこん煎の
あんかけ

> レシピはこちら



No.003
ブロッコリーとチーズの
マヨマスタードサラダ

> レシピはこちら

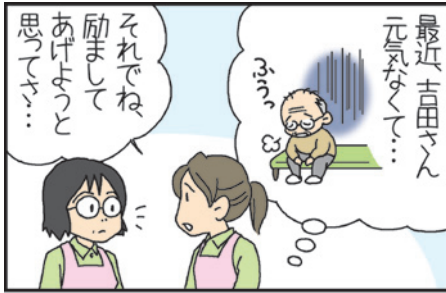


No.004
キャベツと豚ひき肉の
重ね煮

> レシピはこちら

レシピ紹介

※画面サンプルです



ほつとお手入れ スッキリ小顔&美肌に

新しいことが始まる春は、人前に出る機会も多い季節。スッキリとした小顔、さらに美肌も目指せるお手入れを紹介します。

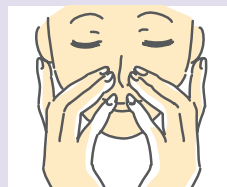
マッサージの一番の目的は、顔の血管をほぐして新陳代謝を促すこと。真皮にある皮膚の機能を保つ上で重要な「線維芽細胞」を刺激すると、細胞が活性化し美肌をつくるコラーゲンやエラスチンの分泌がアップします。化粧のりの良さも実感できるはずですよ。



<ほお骨>

机に両肘をつき、ほお骨の下のくぼみに両手の手のひらを当てて5~10回ほど骨に押し付けます。

ほお骨をほぐすことで新陳代謝が促され、むくみが取れます。



<鼻筋>

手を広げて指を鼻筋に当て、骨に押し付けながら上下にしごきます。ゴシゴシと強くこすらず、皮膚を骨に押し付けるくらいの力加減で。鼻の両側には「迎香(げいこう)」と呼ばれるツボがあり、鼻炎、花粉症、シミ、シワの予防にも効果があるといわれています。



<鼻の下>

鼻の下に人差し指の腹を当てて、皮膚を上あごや歯に押し付けながら左右にしごきます。

「水溝(すいこう)」という顔のむくみに効果があるツボを刺激します。

※取材協力/エステ・整体サロン MIU (東広島市)

旬カメラ 春のシロツメクサ

道端や庭の隅の方にポツポツと咲くシロツメクサを見ると、少しノスタルジックな気分になります。子どものころに、シロツメクサを編んで王冠を作って遊んだことを思い出すからでしょうか。上手に作るコツを調べてみると、茎を長くにとって摘み、花を詰めながらしっかり編む、とのこと。久しぶりに花を摘んでみるのも楽しそうです。



1.2.3...? 気になる数字

子どもの6人に1人が貧困状態

貧困率は、低所得者の割合を示す指標。厚生労働省が2014年7月にまとめた「国民生活基礎調査」によると、「相対的貧困率」は16.1%だった。これらの世帯で暮らす18歳未満の子どもを対象にした「子どもの貧困率」も16.3%となり、ともに過去最悪を更新している。とりわけひとり親家庭の貧困率は50%を超えており、深刻な状況となっている。高齢者の貧困も同様

で、生活保護世帯のほぼ半数を高齢者世帯が占めており、所得再分配機能の強化が求められている。現在、おいしい食事や幸せな時間を提供しようと食事サービスが展開されつつある。子どもたちだけでなく高齢者も同様のニーズがあることを考えると、地域ぐるみで「コミュニティ食堂」の展開はひとつの方法かもしれない。

編集後記

「ため息をつくとしあわせが逃げるよ」。子どもの頃の私に母はそう言いました。「そんなこと言ってもテストばかりの毎日はほんと大変なんだから!」と親子げんか。なつかしい思い出です。母の話はただの励ましではなさそうで、うつむいてため息をつくの続けると心の病気になることを検証した精神科医師がいたそうです。反対に、上を向いてさえいれば気分が晴れるというもわかっているらしい。それにしても今回の介護報酬改定はため息ばかり。日々の激務に、桜や霞の空を見上げてほっとひと息つきたいですね。

(丸山)

きゃぶす便り定期購読について

きゃぶす便りの定期購読をご希望の方は、お届け先の郵便番号、住所、事業所名(ご氏名)、「きゃぶす便り定期購読希望」と明記の上、下記フリーダイヤルFAX宛てにお送りください。無料でお届けします。

FAX 0120-47-1704